横浜市立 稲荷台小学校　　令和　4　－　6　年度版　中期学校経営方針

学校教育目標	『自分とみんな いいな いいな 稲荷台』 【知】自分の考えをもち、自分の言葉で表現ができる子 【徳】互いのよさを認め合い、思いやりをもって、正しい行動ができる子 【体】健康な生活習慣を身に付け、すすんで運動に取り組む子 【公】地域とかかわり、地域を大切にする子 【開】豊かな創造力をもって、チャレンジし続ける子

学校概要	創立　101　周年	学校長　　中山 正之	副校長　　更科 和也	2　学期制	一般学級：12	個別支援学級：3
	児童生徒数：　381　人	主な関係校：　岩井原中学校 富士見台小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
問題発見・解決力 言語能力

岩井原中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
岩井原中学校 富士見台小学校 稲荷台小学校	○自尊感情を育み、高めていく子ども ・自分のよさを発見し、よりよい自分になろうとする気持ちを育てる ・横浜こども会議で話し合ったことを全校で実践し、日常の生活に生かしていく。 ・運動会、児童生徒交流会、ミュージックフェスタ、作品展を通して、児童生徒の交流を図り、互いのよさに気付く。 ・ブロック内の研究会等を通して、課題解決を図り、各教科の系統性を理解する。

中期取組目標	**○系統性を重視し、問題発見・解決力、言語能力（対話力）を育みます** ＜問題発見・解決力＞ 低学年：好奇心がもてる課題を設定します。 中学年：課題を捉え、様々な解決方法を身に付けさせます。 高学年：目的に応じて解決方法を選択できる子を育てます。 ＜言語能力（対話力）＞ 低学年：話を集中して聞き、感じたことを言葉にして表現できる子を育てます。 中学年：互いの考えの共通点や相違点に着目して自分の考えが相手に伝わるように言葉を選んで話せる子を育てます。 高学年：様々な考えを関連付けながら、整理したり、まとめたりできる子を育てます。 **○「次の100年へ」をスローガンに地域と共に活動をすすめます** ・地域と連携した活動を通して、まちのよさや課題に気付けるようにします。・まちの人との関りを通して、コミュニケーション力を養い、まちの人々の取組を理解し、まちを愛する心を育てます。

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導	①家庭学習の質の向上に努める。音読では、評価項目を設定し、保護者にも音読のねらいが分かるようにする。全校で作文ノートを準備し、思いを書いて表現できる機会をつくる。②家庭学習では、児童が課題を選んだり、課題を設定できるようにする。自学ノートを使い、自らが課題を決めて取り組むことで、学習意欲の向上を目指す。家庭学習やスキルタイムを通して、読む力、書く力、計算する力の育成を図る。③校内重点研究では、教材の価値や魅力を捉えさせながら子どもがこれまで獲得してきた知識、技能や考え方、解決の仕方を揺さぶるための教材研究、子ども一人一人の実態に応じた的確な学習支援ができる教材研究に取り組む。
担当	学力・評価研究部	
徳	人権教育	①学校生活目標に基づいた活動(よいところみつけ等)を行う。②児童の適正な自己評価力を高めるために、教職員は意識して児童の活動を価値付けする。③自尊感情を高める手立てとして、活動のねらいや内容をキッズレポートで隔月紹介し、保護者との共有を図る。④バディ活動を通年行い、異学年交流のよさを実感できるようにする。
担当	人権・児童指導部	
体	健康教育	①授業を通して、運動に親しみ自己の健康の大切さを認識できるようにする。体力テストなどから運動面の課題を把握し、体力向上1校1実践運動で、課題の改善に通じる取り組みを行う。②学校保健委員会では、引き続き体幹を鍛える取り組みや、柔軟性を高める取り組みを推進するための活動を行う。
担当	体力・健康増進部	
公開	自分づくり教育（キャリア教育）	①「自分づくりパスポート」を活用し、自分の成長や変容を客観的に振り返り、自尊感情を高める手立ての一つとする。保護者とも内容を共有し、一人一人の成長を認め合う。②地域で体験的・共同的に学ぶ機会を設ける。
担当	人権・児童指導部	
いじめへの対応		①職員が日頃から児童の様子をよく見て把握し、日常的に児童に関する情報交換を密に行う。②家庭や関係機関との連携を図る。③子ども同士のトラブルでは、「本当はどうしたかったのか。」「どうしたらよかったのか。」を子ども自身が語ることで、コミュニケーション能力を育てる。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方改革)		①重点研、特別支援教育を柱としたメンター研修の年間計画を立て、若手の育成を図る。②管理職・学経部部長を中心に年間を見通して計画的に業務を遂行することで、業務の効率化を図る。③ICTを有効活用した各家庭、教職員間との連絡体制を整え、業務の負担軽減を目指す。
担当	教務部	
チーム学年経営		教科分担制や専科制を取り入れ、一人の子をより多くの教師の目で見取れるようにする。多くの教師によって児童理解を深めることで、子どもが安心して生活できる基盤を作る。教科分担制・専科制によって教材研究の効率性を高めることで、教師の負担を軽減し、より教科の専門性や教師の強みを生かした授業づくりを目指す。
担当	教務部	
特別支援教育		①特別な配慮を必要とする児童に対し、個の見取りを丁寧に行い、個の特性に合った細やかな支援・指導を進める。②発達障害に関する理解研修や、学習支援に関する研修を行い、児童理解や教科・生活指導に生かす。③個別の教育支援計画・指導計画の確実に作成し、活用する。
担当	人権・児童指導部	
保健管理・食育		①保健室来室状況や健康診断の結果を分析し、基本的な生活習慣を身につけ、健康な生活が送れるよう保護者との連携をはかる。ほけんだより等、情報発信に努める。②学年に応じた内容で食育の授業を全学年において行う。また、全校集会の場を通じて、全校共通の食育指導を行う。家庭でも「食」に興味をもてるよう、定期的に食育だよりを発行する。
担当	体力・健康増進部	
地域学校協働活動		①地域の方に本校の児童や学校行事へ理解を深めてもらえるよう、ホームページや学校便りで情報を積極的に発信していく。②学校運営協議会では、中期学校経営方針や教育活動評価を基にしたアクションプランを伝え、より良い取り組みについて建設的に協議していく。
担当	教務部	